

日 付	平成29年7月27日(木)	天 気	晴れ(最高気温26℃)
主な日程	農業実習 ①山下農園(安藤) ②岡森農園(石井・田中) ③徳久農園(森・内ヶ島) ④貴田農場(諏訪・西岡) ⑤古庄農園(守屋・山本)		
研 修 内 容		研 修 の 写 真	
<p>①山下農園(安藤) 面 積:約50ヘクタール 作 物:ブドウ、カキ、デコポン、アテモヤ ビワ、トマト、ミニトマト、ピーマン 午前中はサンミゲル・アルカンジョのフェイラ(市場)に行きました。市場では肉や野菜、花、衣服などが売られていました。花では、ダイアンサスやマリーゴールド、デンファレを中心とするたくさんの花がポットで売られていました。帰りに山下さんにパステスを買って頂き、ブラジルの食文化を楽しみました。午後からは、山下さんの農場の視察をしました。ブラジルにもハウスがあり、ハウスは業者が建てるものだと思っていたのですが、手作りで木やワイヤー、ビニールを組み合わせで丈夫なハウスが建っていました。そのハウスでは、トマト、ミニトマト、ピーマンを育てていました。</p>  <p>山下ユリさんとの記念写真</p>		 <p>市場で売られていた花</p>  <p>山下さん手作りのハウス</p>  <p>ウシの追い込み作業</p>  <p>ウシの去勢</p>	
<p>②岡森農園(石井・田中) 作 目:ビワ、ウシ 従業員数:5名 私たちは、岡森さんご夫妻と実習を行いました。岡森農園のウシは、ネローレ種が主に飼育されていて、およそ600頭を600ヘクタールで飼育しています。農園面積の400ヘクタールが牧草地となっています。飼育されるウシは自然交配によって年間におよそ200頭が繁殖します。出荷数は年間におよそ130頭で、1頭あたりおよそ10万円で販売されます。現在は600頭の規模ですが、将来は800頭まで増やしたいということでした。</p> <p>実習内容は、おもにウシの体重測定と去勢でした。体重測定は、まずウマで体重測定をする場所に追い込んで、追い込まれたウシを半分ずつに分けて1列に並ばせた後、耳標番号を確認し、体重測定の前に治療が必要なウシには処置</p>			

をし、およそ100頭を計測しました。去勢は、体重測定後に別の場所に移動させて17頭を行いました。

体重測定では、普段広大な牧場で自由に飼育されている分1頭1頭になると凄く暴れるウシばかりでした。あんなにのんびり牧草を食べているウシたちが暴れるなんて思ってもいなかったのが驚きました。去勢では、従業員総出でやっていました。200kgを超えるウシを捕まえて抑えるのは相当な力だと思いました。

③徳久農園(森・内ヶ島)



私たちは、徳久さんのお宅で実習をさせていただきました。農園に着くとビワの木の説明を受けました。ビワは海岸近くの標高600から800mのところで多く栽培されています。その後、ビワの選別と箱詰めをしました。同じ作業の繰り返しは大変でした。

午後は、花の品種改良や開発をする阿武野さんのハウスを視察しました。農電ケーブルなどの日本の技術がたくさん作られていたし、温度・湿度管理が徹底されていました。また、日本とブラジルなど、農業の海外との違いを話してくださり、オランダの利益を求める農業方針に興味を持ちました。

④貴田農場(諏訪・西岡)

面積：26ヘクタール

作業人数：3名

栽培作物：ビワ、カキ、アテモヤ、

ピッタイヤ（ドラゴンフルーツ）

私たちは、貴田さんのお宅で実習をさせていただきました。農園に着く前に村にあるブドウなどの果樹園を視察して回りました。その後、車で移動しながら貴田さんの農園の説明を聞きました。その後は、出荷用の箱の組み立てや、アテモヤに傷をつけないようにするスポンジを取り付ける作業をしました。貴田さんへ農家の規模などの質問をした後に、昼食を頂きました。日本風のうどんなどを頂きました。



岡森農場の家族と記念写真



ビワの箱詰めをする森くん



アテモヤ出荷用の箱作り



ピッタイヤ（ドラゴンフルーツ）の農場

昼食後は、農園を散歩し日本との規模の違いを見て驚きました。その後、徳久さんたちのグループと阿武野さんの農場に移動しました。農園のハウスでは、花の育種や品種改良の現場を視察しました。また、日本の技術を取り入れた野菜の接ぎ木も視察することができ、日本とブラジルとのつながりを感じることができました。

⑤古庄農園(守屋・山本)

酪農(乳牛の交雑種)

果樹(ブドウ、ビワ)

午前中は、古庄農園の家畜に与えている飼料や農業機械、農園の経営の仕方を説明してくださいました。

午後からは、古庄さんの子供たちと家畜の除糞をしました。ニワトリとウマは1日に3回ほど除糞をするそうです。私たちが掃除をしたときは、家畜の糞が堅くなっていたり狭いところもあったりして難しかったけど、子供たちが私たちにやりやすい掃除方法を教えてくれたのでスムーズに楽しく作業ができました。その後に、エンバクをトラクターに積める作業をしました。

古庄さんからのアドバイスで「若いときからいろいろなこと経験して身につけていくことが大事」ということが一番印象に残っています。



畜舎における除糞作業



エンバクを畑から回収



トラクターの上で記念写真



古庄宅前でお世話になった家族と記念写真

◇1日を終えて

今日、私たちは各農家さんにお邪魔して実習をさせて頂きました。それぞれ朝早くから夕方まで実習をして、車で送迎もして頂きました。本当に優しくして頂いて、温かく迎え入れてくださりました。全団員が、移民された日系人の方々との交流の中で、日本の生活の中では感じられない様々なことに気づき、興味を持つなど有意義な時間を過ごしました。この農業実習を通して、日本とのウシの価値や飼い方の違いなどにたくさん驚かされました。そして、いろいろな考え方に衝撃を受けました。このような刺激を大切にしていきたいです。
(担当 石井)